

# タヌキ、キツネ、アナグマの全国における分布状況について

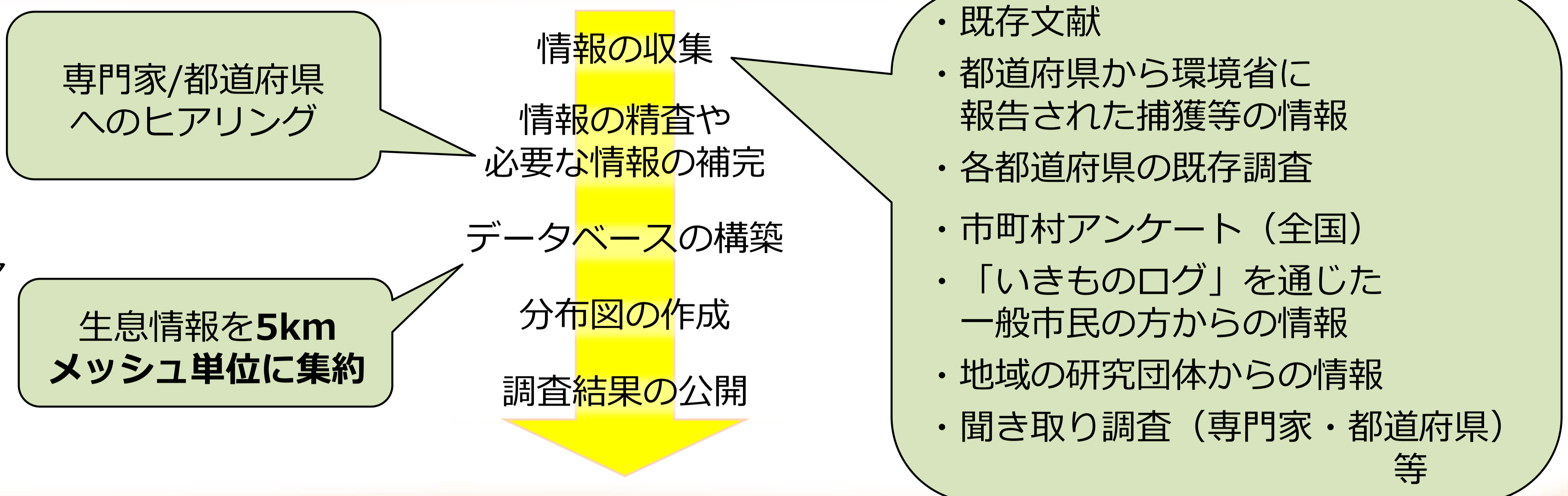


## はじめに

- ・タヌキ、キツネ、アナグマは、行動圏が人間の生活圏と重なり合う部分が多く、人間活動との関わりが深い種である
- ・1970年代と2000年代に調査が実施されて以降、全国規模での生息状況は把握されていない
- ・環境省生物多様性センターでは、**タヌキ等3種を対象に近年の生息状況を把握するための調査を実施した**

## 調査方法

- 調査実施年度  
2018年度～2021年度
- 調査対象  
全国のタヌキ、キツネ、アナグマ
- 調査対象期間  
**2010年度～2021年度**  
(過去約10年間の情報を収集)



## 結果

### <分布図の作成>

収集した生息情報をもとに、タヌキ等3種の分布図を作成した

凡例  
■ 分布あり

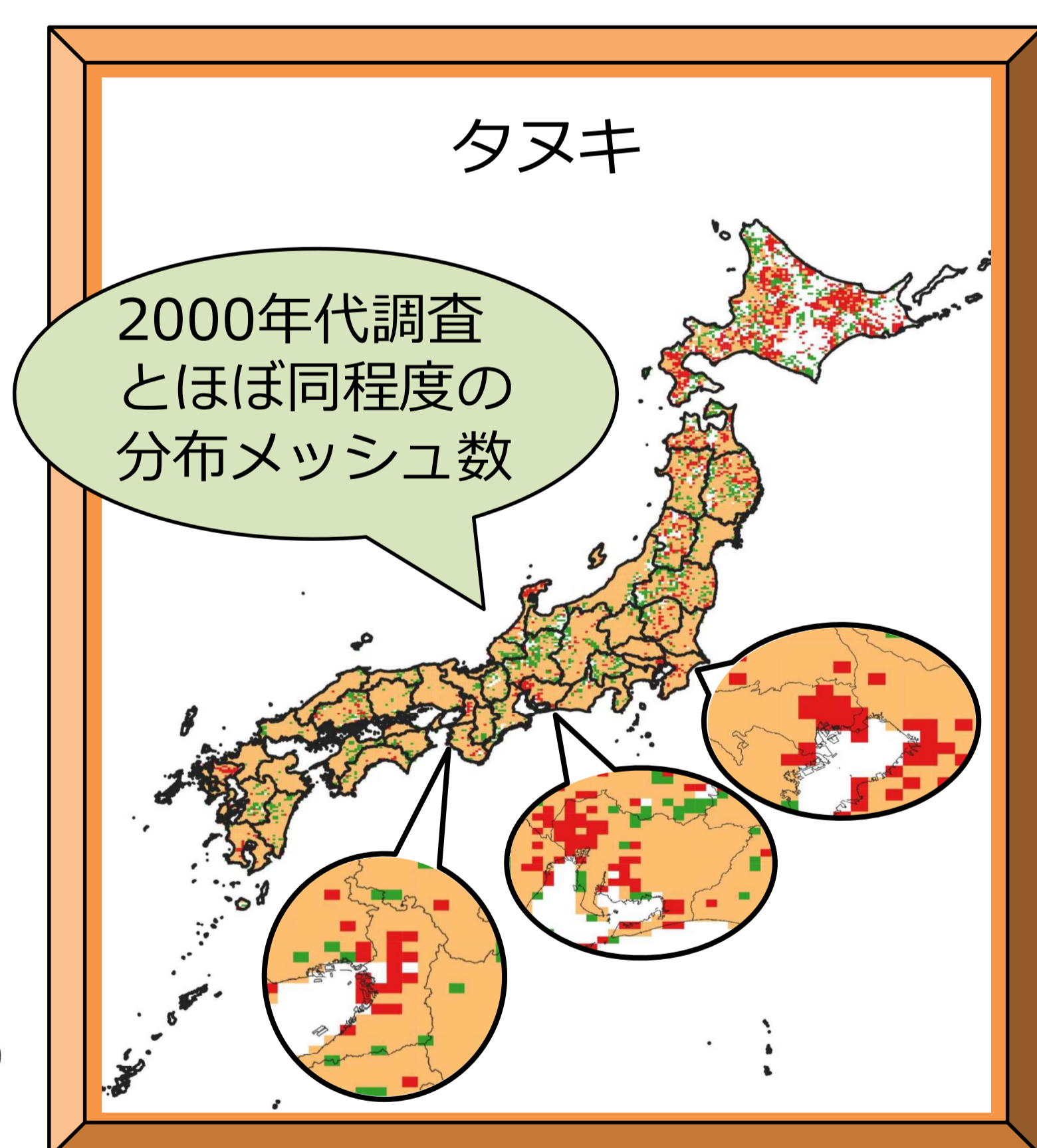


- ・3種共に沖縄県を除く(アナグマは北海道も除く) **広い範囲で分布が確認された**
- ・東京都伊豆・小笠原諸島、鹿児島県トカラ列島・奄美諸島、沖縄県等において、**新たな分布拡大(国内移入)は確認されなかった**

### <過去の調査との比較>

2000年代(第6回基礎調査)の結果との**比較分布図を作成した**

凡例  
■ 今回の調査のみで分布あり  
■ 2000年代調査と今回の調査で分布あり  
■ 2000年代調査のみで分布あり



全国的に大きな変化はないものの、大都市圏とその周辺での分布拡大傾向がみられた



分布メッシュ数が減少した。これには2つの要因があると考えられた  
①分布が縮小した地域の生息状況が反映された(例えば和歌山県)  
②人間活動が少ない地域(森林が多いなど)で生息情報が十分に得られなかった



近畿や九州、首都圏周辺での分布拡大傾向がみられた

- ・2000年代の調査結果と比較して、地域によって**分布が拡大・縮小している**可能性が認められた
- ・一方で2000年代の調査とは調査手法が異なることから、詳細に比較する際には**情報源や情報取得年の精査など注意が必要**

### <調査結果の公開>

今回の調査結果をWebページに公開した



生物多様性センターHP 哺乳類分布調査  
[https://www.biodic.go.jp/kiso/do\\_kiso4\\_mam\\_f.html](https://www.biodic.go.jp/kiso/do_kiso4_mam_f.html)

### ○公開したデータ

- ・中大型哺乳類分布調査報告書
- ・5kmメッシュ別生息情報(xlsxファイル, shpファイル)
- ・情報源リスト(xlsxファイル)

### 情報源リストとは?

5kmメッシュごとの生息情報と、情報の根拠となる情報源を記録したもの

いつ、どの情報源から得られた生息情報が判断でき、使用目的に応じて必要な情報を抽出することが可能